

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2016 年 5 月 1 日 発行
(通巻 469 号)

現代座レポート No. 66

- ・共生の道に生きた男 _ 小金井小次郎 (1)
- ・『遠い空の下の故郷』～ハンセン病療養所に生きて～ (2)
- ・緑中学校・卒業記念講演を終えて 環 笑子 (2)
- ・NPO 現代座第 15 回総会の報告 ・活動計算書 (4)
- ・現代座を支える人々 第 23 回 古明地節子さん (6)
- ・朗読教室第 1 期生発表会 ・会館日誌 (7)
- ・トピックス ・お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

共生の道に生きた男 『小金井小次郎』を語る

小金井市には珍しく三宅島原産のガクアジサイの花が街のあちこちに咲いています。そのいわれを辿っていくと、幕末激変期を生きた一人の農民出身の男の姿が浮かび上がってきます。通称小金井小次郎こと、関小次郎です。

小次郎の墓は小金井市鴨下墓地にあります。墓碑銘は江戸を戦火でさらさないため、勝海舟との会談を西郷隆盛に直談判した山岡鉄舟の筆になるものです。さらに墓地内に立てられた「小金井小次郎君追悼碑」は自由民権運動の闘士として、また国会議員として明治政府と戦った中村克昌が建立しています。

小金井小次郎は明治から昭和にかけて、歌舞伎や講演、あるいは映画などで、国定忠治、清水次郎長と並ぶ武蔵国の大親分として描かれたため、やくざの親分としてのイメージが定着していますが、実はまったく別な顔を持った人物です。

関小次郎は文政元年（1818）、下小金井村の名主をつとめる関家の次男に生ま



『小金井小次郎』を語る 黒澤義之



小金井市内に咲く
三宅島原産のガクアジサイ

れながら、無宿者となり関東一円に名の知れ渡る親分となったことは事実です。しかし、安政 3 年（1856）、37歳の時、賭博の罪で三宅島へ流され、江戸社会から完全に抹殺された人物です。ここで小次郎は全く別な姿に生まれ変わります。

三宅島は八丈島に次ぐ流刑地とされた島でした。幕府から多数の流罪人が送り込まれ、水源がないため、島民は水と食糧の不足に苦しみ、流罪人とのいざこざも絶えませんでした。

小金井の水で育った小次郎は、島の暮らしの中ではじめて水の尊さに目覚めます。小次郎は流罪人を組織し、私財をなげうつて島民とともに大貯水池の建設に挑みます。その規模は五百人が百日間使用できるものでした。以後、島民が水に困ることはなくなりました。幕府支配の流罪地において、困難を乗り越え、島民と流罪人との間に人間らしい「共生」の絆が生まれます。

この貯水池は小次郎井戸と呼ばれ、昭和 30 年代まで島民の生活用水として使われ、三宅村史跡として保存されています。

明治元年、明治政府は幕府に代わって小次郎の赦免状を発行し、小次郎は 50 歳で 12 年ぶりに江戸の土を踏むことができます。以後、三宅島支援や多摩地域の復興に尽くし、63 歳で没しています。

1978 年（昭和 53 年）、小次郎井戸が縁で三宅村と小金井市は友好都市盟約を締結しています。ガクアジサイはそのとき三宅島のシンボルとして小金井市へ贈られたものだったのです。

あの支配者たちの権力闘争に明け暮れた幕末期に、流人と島民の協同に献身した人物もいたのです。下層庶民の「共生協同」を示す貴重な歴史です。

先行きの見えない現代社会も、小次郎の生きた時代に似てきたようです。

(木村 快)

心をつなぐバラエティ劇場

手話で歌おう!

江戸小咄で遊ぼう

おはなし『おおきな木』

朗読・宮沢賢治作『カイロ団長』

黒澤義之による『小金井小次郎』

2016 年 5 月

27 日(金) 14:00

28 日(土) 14:00

29 日(日) 14:00

現代座会館 3F 小ホール
参加費 2,500 円
小中高 1,000 円
(コーヒー or 紅茶付き)

40 名の予約制です
事前にお申し込みください
後援 小金井市

『遠い空の下の故郷』 ハンセン病療養所に生きて

らい予防法廃止から20年たって

今年3月で「らい予防法」が廃止されて20年になります。国家賠償訴訟で政府が謝罪してから15年です。けれど差別は様々な形でつづいており、各療養所には故郷へ帰れない遺骨が多数残っています。

今なお未解決の問題が多く、現在は、らい患者に対して1997年まで隔離裁判を続けたことについて、最高裁が謝罪するかどうかが見守られています。

私をはじめ療養所を訪ねた頃、全国の療養所には約五千人の方が暮らしていました。今は約千六百人となり、平均年齢も84歳に近づいています。

高齢になり、後遺症や障がいを抱えた入所者の方が、最後まで安心して生きられるように、そしてこのハンセン病の差別の歴史を決して風化させないために、ささやかでも、ひとりでも多くの方に知っていただく活動を続けていきたいと思っています。

2月28日(日) 現代座3F小ホール

現代座小ホールで上演するのは5年ぶりです。長野県公演のレポートを見た地元小金井の会員の方たちから、是非やってほしいと言っていたので、小ホールで公演することになりました。

SP雑談会、緑町ふれあいサロン、朗読教室の生徒さん、小金井市のNPO法人連絡会の仲間など、身近な人が集まってくださって、満席の47人でした。

小ホールなればこそその一体感の中で、いっしょに呼吸し、感じ合える劇場になりました。「涙が止まらなかった」とか「この活動は続けてほしい」という声をいただいて、本当にやって良かったと思いました。

(木下美智子)

3月5日(水) 松本市
島内・島立ふれ愛コンサート

長野県松本市は自然豊かな環境に恵まれています。私が暮らしている島内町はアルプスを背に、安曇野まで広がる田園地帯を目の前にした大変暮らしやすいところです。この島内地区に「松本市音楽文化ホール」があります。七〇〇人収容の大ホールには常設のパイオルガンもあり、地域の演奏活動で重宝されています。

島内町と隣の島立町では、地元音楽ホールがある地の利を生かして、毎年春に、合同でコンサートを行っています。それが「人権を考えるー島内・島立ふれ愛コンサート」です。地元小学校二校の生徒達による、合唱や吹奏楽の演奏の発表を中心に、パイオルガンの演奏や落語や地元の歌手をゲストに招いてのコンサートは住民の大きな楽しみとなっています。このコンサートに今回、ゲスト出演が実現したのです。

昨年、松本と豊科で「遠い空の下の故郷」を公演した時に、島内公民館長の胡桃さんが舞台を見て、「ふれ愛コンサート」にゲスト出演してくれないかと打診して下さったのです。音楽専門の大きなホールであり、反響もかなりあり、生の声を伝える「語り」にとっては手強い会場なのではと、心配があったのですが、木下さんとも相談し、挑戦することになりました。

当日、ホールのスタッフさんのアドバイスをいただき、ヘッドセット・マイクを使うことにしました。いつも以上に神経を張った語りが始まりました。会場がどんどん集中していくのが感じられます。時間の関係でいつもの半分の上演時間でしたが、予想以上の出来でした。三〇〇人の観客でした。

【アンケート】◆NPO現代座のうたと語り感動いたしました。何回か参加致しましたが、今

回ほど感動にあふれた「ふれ愛コンサート」はありませんでした。素晴らしい企画ありがとうございました。◆人権を考えるにふさわしいコンサートでした。知らずに差別をすること、今でもハンセン病に限らずあるかもと考えるとこわいと思う…など、一〇〇枚以上の感想文が寄せられました。(今村純二)

3月10日(木) 小金井市立緑中学校
卒業記念講演会を終えて

環 笑子



その日、天気予報は雪マークがついていた。卒業式を一週間後に控えた三月十日、幸い雪も雨も降らなかったが凍えるように寒い日だった。

昨年四月、緑中父母と教師の会の三学年委員を引き受けた(緑中ではなぜかPTAとか学級委員とは言わない)。末の子の卒業の年、小学校でも中学校でも一度も委員をしてこなかった一回はやっておこう、最後のご奉公だという思いがあった。それは卒業記念講演会に現代座を呼びたいと考えていたからだ。卒業記念講演会とは、授業枠を使って保護者が企画できる緑中独自の行事である。

現代座の木下美智子さんは私にとって「会いに行けるアイドル」で、「遠い空の下の故郷」は木下さんのファンになるきっかけとなった演目だ。

作者・木村快さんの人を観るまなざしのあたたかさ、岡田京子さんのそれに寄り添う優しい音楽、木下美智子さんの本人が話しているとしか思えない見事な語り、それを包み込み増幅する松本真理子さんのアコーディオン、観た者の心に必ず響く美しい作品である。

卒業記念講演会といういわば「ハレ」の場で、差別をテーマにした作品はいかなものか、などの意見も聞こえてきた。が、三学年委員の皆さんが「こういう



2月28日
現代座3F小ホールで



3月10日
小金井市立緑中学校の卒業記念講演会で

上演する会場は定員40名の現代座小ホールから、松本市音楽文化ホールのような大会場、230人の中学卒業生を送る緑中学校体育館と実に様々です。



3月5日 松本市島内ふれ愛コンサートにゲスト出演。パイプオルガンの設置された松本市音楽文化ホールで

『遠い空の下の故郷』
上演チームの紹介

◆木下美智子 2001年以来、熊本・鹿児島療養所と交流。2005年から語り続けている。



◆今村純二 現代座の前身・統一劇場創立期からの俳優・アコ奏者。松本市で小さな島を借りて農業の傍ら地域活動。現代座副理事長。



◆松本真理子 統一劇場時代は木下美智子と同期で俳優兼アコーディオン奏者。高齢の父を介護しながら、必要に応じて現代座を支援。



テーマの演目は、自分の楽しみのために選びとって足運ぶものではないので良い機会になる」と賛成してくださり、先生方も入試や卒業準備でお忙しいなか、ハンセン病について事前学習の授業を二時間してくださった。緑中は伝統として合唱に力を入れており、しかも三年学年主任が音楽の先生で、演目に含まれる「赤とんぼ」と「ふるさと」もきつちりご指導いただいた。卒業生達は最後に講演者へのお礼として、「ふるさと」を合唱した。これほど思いがこもった「ふるさと」を聴けて私は幸いである。正に緑中三年間の集大成と言えるものだった。願わくば、子どもたちの心の片隅に何かしら残りますように。

中学生の感想から

◆ハンセン病の存在を初めて知って、いろいろと思わされました。「知らなかった」では済まされないようなことではあるけれど、これからもっと自分自身を見つめ、差別について考えていきたいです。このような機会が無かったら思わなかったと思います。ありがとうございました。

◆思っていたものより想像以上にすごい朗読だった。本当に体験した方から聞いている気分になって、痛いシーンの時にはすごく重い気持ちになった。とても感動した。

◆木下さんの話し方やアコーディオンで、すごく話に引き込まれました。こんなにつらいことがあったのかと思うとやりきれない気持ちでいっぱいになったし、自分がもしハンセン病になって同じ体験をしたら耐えられなかったと思います。こういうことをつなげていかなければならないし、ハンセン病を恐れてはいけなさと感じました。

◆お話を聞いてすごく心に響き、すごく泣きそうになりました。今でもいじめや差別があります。何も悪いことをしていないのに、悪者扱いされるのはおかしいと思います。私はそういうことを絶対にしません。そういうことを止める人になりたいです。写真を見てみたかったです。ありがとうございました。

NPO現代座 第15回総会報告

2016年4月16日(土)午後6時半から、現代座で「NPO現代座第15回定期総会」が開かれました。正会員17名中9名の出席でした。

財政状況

左の表は東京都に提出した「活動計算書」です。

2015年度は約8万円の黒字になりました。前年度までの累積赤字がありますから、まだ17万円弱の赤字が残っています。赤字はかなり少なくなってきました。

収入では何より会員の皆様の会費と寄付で支えて頂きました。約400人の方が寄せてくださった220万円で現代座の基本的な活動が成り立っています。本当にありがとうございます。

活動報告

①地域劇場づくり支援事業

これは現代座会館を地域の方や創造活動をする方に活用してもらおう事業です。

◎定例活用

毎週行っているのは「小金井熟年会」の勉強会、障がい児の放課後預かり事業「バンビーノ」、通信制大学生支援の「早稲田ラジオスクール」と「教育文庫」、そして「東志野香のヨガ教室」です。

毎月「緑町ふれあいサロン」が行われているのと、緑町第二町会は役員会や総会にも使って頂いています。

◎地下ホールと3F小ホール

ホール公演6団体、3F公演2団体、稽古など14団体で、今までより多くの使用がありました。毎年、公演や稽古に現代座を使用してくれる団体があるのは嬉しいことです。

②制作上演事業

◎合唱構成劇『武蔵野の歌が聞こえる』

昨年好評だったので、さらに広げたいと15年度も現代座ホールで9月4、8日、8ステージ上演しました。今回も満席で600人以上の方が参加して下さいました。その結果、新しい団体への広がりが生まれ、16年度も9月に現代座で公演し、17年度は「川崎平右衛門」の没後250年にあたり、平右衛門が生まれた府中市での公演も予定しています。

◎『昭和のコドモが伝えたいこと』

戦後70年、木村快が子供時代に受けた戦争教育、日本内地とはちがった植民地

での暮らし、引揚げの実情などについて語りました。戦争中に実際に使われていた紙芝居を観賞し、知識だけでなく体験して頂くことがテーマでした。4月、6月、8月、10月と7ステージ行い、11月には木村快との雑談会を行いました。

③セミナー事業

◎『遠い空の下の故郷〜ハンセン病療養所に生きて〜』

長野県で5カ所7回の上演をしました。長野県仏教婦人会総会や伊那市の人権教育講演会。そして松本在住の今村純二・倭子夫妻が松本市島内地区と安曇野市の上演を取り組みました。

2月には久しぶりで現代座3F小ホールでも観ていただきました。

◎『SPレコード雑談会』

「昭和のコドモ」はこの雑談会で紙芝居を見て話し合ったことから始まりました。今年度は4回行いましたが、新年度からは音楽を聴くだけでなく、昔の芝居のDVDを見ることも始めました。

◎『誰でもできる朗読教室』第1期

長谷川葉月さんを講師に、初心者向け朗読教室を10月から始めました。基礎訓練を丁寧に行いながら、半年間で発表会までやる12回の講座でした。9人が受講しました。(詳細は7P)

④その他会館の整備など

◆トイレのリフォーム 1Fのトイレを全部洋式にリフォームしました。鍵が使いにくくて苦労していた2Fと3Fのトイレのドアを取り替えました。

◆屋上の防水塗装を行い、雨漏り問題が解決しました。

◆ホールの照明設備新調 これまで40年以上使用していたホールの調光設備を新調する工事を進めています。

◎事務所スタッフ

昨年の柳澤さん、前田さんから引き継いで、ご近所の子育て中のお母さん、松本江理子さんと後藤俊子さんが、平日の午前中、掃除や資料整理等をやってくれています。



2016年度・2017年度も公演予定。
『武蔵野の歌が聞こえる』

2015年度 活動計算書

2015年3月1日から 2016年2月29日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座

(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,897,000
2 受取寄付金		307,000
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	4,079,700	
②制作上演事業収益	2,081,000	
③セミナー事業収益	773,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	2,000	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	6,935,700
5 その他収益		
受取利息	212	
雑収益	99,223	99,435
経常収益 計		9,239,135
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	582,900	
(2) その他経費		
制作・準備費	269,308	
創造・上演費	1,842,312	
交通・通信費	65,000	
資料・印刷費	36,896	
消耗品費	1,783,236	
会報・HP経費	850,962	
その他経費 計	4,847,714	
事業費 計		5,430,614
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	426,350	
(2) その他経費		
通信運搬費	173,882	
消耗品費	174,086	
OA経費	453,664	
雑費	278,606	
光熱水道費	946,939	
租税公課	70,000	
家賃	1,200,000	
その他経費 計	3,297,177	
管理費 計		3,723,527
経常費用 計		9,154,141
当期正味財産増減額		84,994
前期繰越正味財産額		-252,011
次期繰越正味財産額		-167,017

当期において、その他事業は実施していません。

NPO現代座を支える人々

第二十三回 古明地節子さん

記 武本英之

古明地 節子さん
(こめじ・せつこ)

「あのマンションの住民の40人は75歳以上の方たちです」——この方に聞けばその地域のことは何でもわかる。

隣近所の付き合いがなくなった昨今、そんな地域の事情に明るい方がめっきり少なくなつた。古明地さんは地域の事に精通した数少ないお一人である。子供が大學生になつて親の手を離れた時、民生委員の仕事を引き受けられた。当初、「方面委員（民生委員の前身）は大変だからやめた方がいい」と家族は反対したが、結局引き受けてから今年で早や28年。岡山県で初めて民生委員制度ができて来年で100周年を迎えるそうだから、古明地さんはその約3分の1近い歳月を民生委員として社会に向き合つてきた。その結果、地域の事情通になるべくしてなつたというわけだ。

現代座と古明地さんのお宅と筆者の家は東京・小金井市の緑町第二町会という同じ地域ブロック内にある。いわゆる「隣近所」の位置だ。この顔の見える近所付き合いが今、崩壊している。「閲覧板を持つて行く」と『ポストに入れておいて』が、最後は『いつも大変でしょうから町会を抜けます』と付き合いが疎遠になつていきます」と古明地さんは憂える。これには筆者も内心ズキンとくるものがある。

現在の問題として頭が痛いのは、公的な制度に依存

することによって、お互いに協力しあう力が弱くなつてきていることだと言う。「独居の高齢者が具合が悪くなると、以前は様子をよく知るお隣さんが病院に連絡をしてあげてました。今はケアマネさんが契約したヘルパーを呼びます」。「障害者の方の対応も変化しています。今、有償ボランティアという制度ができて、お金を払つてボランティアしてもらえます。有償となると雇用関係になります。隣近所の本来の善意のボランティアが減っています」と奥深い問題を提起する。

緑町ふれあいサロンの誕生

「これでいいの。隣近所の付き合いもなく、引きこもつた高齢者の人たちがみんな集える場所はないか」と古明地さんは探し回つた。「あと7、8年頑張つてみよう」と地域興しの人材を養成するファシリテーター養成講座にも通つた。

あるとき、社協主催の一人暮らしの高齢者の会食会で現代座の人たちが歌や踊りで、会場になごやかな雰囲気をつくりだしているのを目撃した。現代座の名前は古くから知つていたし、環境汚染がテーマの「虹の立つ海」（木村快作）を観たこともある。けれど、自分たちとは関係ない団体だと思つていた。このときはじめに「こんなこともしてくれるのか」と興味を持つた。そんなとき、木下美智子さんがひよつこり訪ねてこられて、「何かこの地域でお役にたてることはないでしょうかねえ」とおっしゃる。

「ありますとも、ぜひ一緒にやりましょうよ」

「緑町ふれあいサロン」の誕生である。2013年10月スタート。すでに30回ほど開催した。現代座会館

の1階ロビーに毎月第3木曜の午後、緑町を中心に高齢者が15人ほど集まる。サロンで自己紹介し合うと、顔は見かけたことはあつても会話をしたのは初めての人ばかりだつたという。それほど地域の高齢者は孤立している証だろう。

サロンは誰でも参加できる。お茶を飲みながらのお喋りだが、時に朗読あり、歌あり、人形劇あり、ヨガあり、と現代座の役者スタッフが参加する。「現代座だからこのサロンは楽しいんですよ」と古明地さんはおっしゃる。

「このサロンは自由にお喋りができます。こんなお店があるよとか、こんな美味しい物が食べられるよといった会話が毎日の生活のエネルギーになります。メンバーには91歳になる井上末子さんがいらして、庭で取れたお花を持ってきたり、草の実でアクセサリーを作つたり、みんなでフアワ騒ぎながらね」

これからの現代座には「地域に開かれたサロン」としてのお喋りの次に、何かみんなで一緒にできるようなことを考えたい」と古明地さんから宿題が出された。

了



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

誰でもできる朗読教室 1期生発表会

現代座3階小ホール

朗読会の楽しさ

息づかいを感じるよろこび

講師 長谷川葉月

3月23日(水) 現代座会館3階小ホールで、昨年10月からの半年間、月2回の朗読講座を受講した9人がその成果を発表しました。

長く朗読を学んできた私にとつて、朗読をする人もそれを聞く人も、朗読がこんなにも楽しく感動させるものだということを目の当たりにしたのは初めてといつてもいいでしょう。朗読を習い始めてわずか半年の“生徒”たちにとつてもさぞや驚きの連続だったと思います。

まずプログラムを紹介しましょう。

- 志賀直哉作 『清兵衛と瓢箪』 井上尚子
- 芥川龍之介作 『蜘蛛の糸』 手塚修
- 小川洋子作 『風薫るウィーンの旅六日間』

ながつきさわこ

- 夏目漱石作 『永日小品―泥棒』 高嶋悦代
- 太宰治作 『黄金風景』 石川秀樹
- 志賀直哉作 『転生』 醬野良子
- 池波正太郎作 『鬼平犯科帳―むかしの男』

木谷道宣

- 篠原昌裕作 『卒業旅行ジャック』 環笑子
- 夏目漱石作 『吾輩は猫である』 今井治江

実は、このなかには朗読をまったく経験したことのない人が4名もいらして、受講した当初は、ちよつとした稽古場発表会ならともかく、まさか自分がお客様の前で衣装をつけて、舞台照明も入って朗読をするなんて思いもよらなかったことと思います。



後列 前列

石川秀樹
醬野良子
ながつきさわこ
木谷道宣
環笑子
長谷川葉月 (講師)
今井治江
井上尚子
高嶋悦代
手塚修

現に講座が進むにつれて、「私、この教室の稽古だけでいいんですけれど、出なきゃダメですか?」「エーッ、衣装って何ですか! 持ってません」「発表したい作品を自分で選ぶなんて...、普段は小説を読まないんです私、もっぱらマンガで」などの声が続出。

それが、いよいよ2月から各自が発表作品の稽古に入ると、どうでしょう。本を持つ手が震え、文字を目で一瞬懸命追いつながら、つつかえつつかえ、かろうじて声を出していた人たちは何処へ? スラスラと淀みなく読むのはもちろん、声の調子に変化をつけたり、顔を上げたり、立ったり座つたりと、自分たちで工夫を凝らして、どんどん読み方が上達していくではないですか、もう別人のように。

そして迎えた発表会当日、ほぼ満席の40名あまりのお客様の前に、堂々と舞台朗読をする姿はみなさん輝いて見え、私は感動とともに精一杯の拍手をおくりました。

4月開講の第2期の朗読教室は、おかげさまで受講者も集まりました。半年後の発表会もますます楽しみです。

現代座会館 2月〜4月 活動日誌

- 1月30日 「現代座レポート65号」 発送作業
- 31日 木村快雑談会
- 2月8日 北海道より青柳省三さん、鷺津さん来訪
- 18日 「緑町ふれあいサロン」
- 21日 協同勉強会・DVD上映「風は故郷へ」
- 29日 ワーカーズコープ永戸祐三理事長一行来訪
- 3月17日 「緑町ふれあいサロン」
- 19日 緑町第二町会役員会
- 21日 雑談会・DVD上映「遙かなる島」
- 22日 北海道「こぶし座」より計良夫妻来訪
- 4月4日 現代座ホール照明設備新調工事完了
- 11日 NPO現代座理事会
- 12日 DVD上映会「遙かなる島」
- 16日 NPO現代座総会
- 21日 「緑町ふれあいサロン」
- 24日 木村快雑談会

【現代座ホール】

- 2月12〜13日 八木澤賢「注文の多い料理店」稽古
- 2月27〜3月2日 希望舞台「焼け跡から」稽古
- 3月3日 目黒陽介ジャグリング撮影
- 3月25〜27日 X Company 「女の戦い」公演
- 3月31〜4月2日 劇団ブルーベリーパイファミリー
- 4月7〜25日 シアター青芸「ウインズオブゴッド」稽古

【三階小ホール】

- 2月28日 「遠い空の下の故郷」公演
- 3月13日 津田リトル・コンサート
- 4月3日 希望舞台「釈迦内枢唄」稽古

- 隔水曜日 朗読教室
- 毎火曜日 東志野香のヨガ教室

【定期使用 二階サロン】

- 毎日曜日 早稲田ラジオスクール(学生支援)
- 毎月曜日 子どもクラブ・バンビーノ
- 毎水曜日 熟年パソコンサークル
- 隔木曜日 熟年講座
- 毎土曜日 オフィスブラッシー・ワークショップ

トピックス



従来の調光室

さようなら 40年以上も
働いてくれた電電社の調光器調光室の壁面もすっきり、新しい調光器が並ぶ。
嬉しいような寂しいような照明担当の渋谷博史

◆現代座ホールの調光設備を新調
現代座ホールの調光器は1960年代から全国の市町村を駆け巡り、会場が無い町では体育館を劇場に変身させる大切な役割を担ってきました。大事に使っていたのですが、ついにメーカーからの部品供給が不可能となり、40年間馴れ親しんだ器械と別れを告げ、新しい調光器と入れ替えることになりました。

ここ数年、専従職員を置かずに経費を節約し、エアコンや客席の椅子を新調して進めてきた中でも、大きな転換点になります。この新しい調光設備に頑張つて貰つて、これまで以上に暖かく、優しいホールにしたいと思います。

お知らせ

心をつなぐバラエティ劇場

第1部 楽しいお話

「カイロ団長」	長谷川葉月
「おおきな木」	矢川千尋
「江戸小咄で遊ぼう」	東志野香
「手話で歌おう」	木下美智子

第2部 語り

揺れる幕末 共生の道に生きた男

小金井小次郎

作・木村 快 語り・黒澤義之

5月 27日(金) 14:00
28日(土) 14:00
29日(日) 14:00

現代座3F小ホール
参加費 2500円(コーヒー or 紅茶付き)
小中高 1000円
◆40名の予約制です。事前にご連絡下さい
電話:042-381-5165 FAX:042-381-6987

『遠い空の下の故郷』

～ハンセン病療養所に生きて～』

人権教育研究協議会及び人権啓発講演会

日時:6月27日(月)午後

会場:松本合同庁舎会議室

主催:長野県教育委員会事務局 中信教育事務所

9月上旬 要望に応じて再々演

合唱構成劇

武蔵野の歌が聞こえる

元禄バブルを打ちのめした宝永大地震・富士噴火
災害復興改革を目指した享保の改革によって
大岡忠相は川崎平右衛門に武蔵野開発を依頼

「弱者を含めた全体で生きぬけ!」
武蔵野は協同の心に目覚めた……

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円
協賛会員 10,000円(1口以上)
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座